

## 平成 27 年度教育学部・教育学研究科教育改善活動報告

### 目次

#### 1 章 学部授業アンケート回答の分析

1. 授業アンケート質問項目について . . . . . 1
2. 授業アンケート回答の分析 . . . . . 1

#### 2 章 平成 27 年度前期・後期教育学部授業公開報告

1. 授業公開の実施計画 . . . . . 2
2. 授業公開の実施状況 . . . . . 3
3. 授業参観報告書における記述 . . . . . 4

#### 3 章 教育学部・教育学研究科合同 F D シンポジウム

1. F D シンポジウムの目的 . . . . . 7
2. F D シンポジウムのテーマ . . . . . 7
3. スケジュール . . . . . 7
4. 基調報告 . . . . . 7
5. グループ別討論会及び全体報告 . . . . . 8
6. 全体討論会での議論 (学生 F D 委員によるまとめ) . . . . . 9

#### 4 章 学生 F D サミット 2015 夏

1. 活動内容 . . . . . 11
2. 活動詳細 . . . . . 11

#### 5 章 平成 27 年度教育学研究科教育改善のための意識調査

1. はじめに . . . . . 19
2. 意識調査の実施方法 . . . . . 19
3. 意識調査の質問項目 . . . . . 19
4. 調査結果 . . . . . 19

# 1章 学部授業アンケート回答の分析

## 1. 授業アンケート質問項目について

昨年度に引き続き質問項目の見直しを行った。本来、数年分のデータの比較・分析が可能となるまでは質問項目は変更しない方がいいのだろうが、質問項目としての妥当性の向上の観点から検討した結果、11項目を継続、5項目を削除、3項目を新設することとした。これら質問項目の見直しにより、近似した項目の省略や質問意図の曖昧さの軽減が図られたものと考えている。

## 2. 授業アンケート回答の分析

アンケートの実施科目数は昨年度の60科目から5科目少ない55科目で、実施率はおよそ55%である。今後も実施率向上の方策を検討していく必要がある。授業アンケートの14の質問項目について、全科目平均値を次頁の図1に示した。上位3項目と下位3項目は以下のとおりである。

上位3項目	下位3項目
Q14「授業に対する教師の熱意を感じましたか」	Q13「オフィスアワーを活用しましたか」(新)
Q10「教師の説明の仕方は分かりやすかったですか」	Q 6「授業中質問や発言をしましたか」(新)
Q 9「教師の話し方は明瞭で聞きとりやすいものでしたか」	Q 4「予習や復習をしましたか」(新)

下位3項目はいずれも今年度の新設項目である。これらの項目は、学生自身が授業への取り組みについて自省することを明らかに含意した文言なので、学生の評価の低さは想定された結果と言える。これらの次に評価が低い項目は、Q3「授業内容を理解するためには普段の予習や復習が必要不可欠でしたか。」、Q5「授業中は質問や発言がしやすい雰囲気でしたか。」、Q7「授業内容は理解できましたか」で、これらは昨年度と同様の結果である。

表1は、平成26年度と27年度の年度間比較を試行的に行ったものである。表の右端の数値から分かるように、27年度は継続使用した11項目全てで26年度を下回る結果となったのは意外であったが、数値としては授業改善が進まず、寧ろ後退している現状を示している。本アンケートの形骸化も今後懸念される中、学生の有用な声を授業改善に確実に活かすことが最重要事項である。

授業評価アンケート 質問項目		H27	全科目平均値 H27	H26	全科目平均値 H26	全科目平均値差 H27-H26
	授業はシラバスの内容に沿ったものでしたか。	Q1	3.54	Q1	3.61	-0.07
	授業の進度は適切でしたか。	Q2	3.56	Q2	3.67	-0.10
	授業内容を理解するためには普段の予習や復習が必要不可欠でしたか。	Q3	2.92	Q3	2.94	-0.02
新	予習や復習をしましたか。	Q4	2.54			
	授業中は質問や発言がしやすい雰囲気でしたか。	Q5	3.07	Q4	3.37	-0.30
新	授業中質問や発言をしましたか。	Q6	2.63			
	授業内容は理解できましたか。	Q7	3.38	Q5	3.43	-0.05
	授業はあなたの知的好奇心を刺激しましたか。	Q8	3.42	Q9	3.54	-0.12
	教師の話し方は明瞭で聞きとりやすいものでしたか。	Q9	3.58	Q11	3.67	-0.09
	教師の説明の仕方は分かりやすかったですか。	Q10	3.59	Q12	3.63	-0.04
	資料(板書、プロジェクター、配布資料等)の内容は明瞭に見てとることができましたか。	Q11	3.47	Q13	3.56	-0.09
	授業は時間通りに行われましたか。	Q12	3.55	Q14	3.70	-0.15
新	オフィスアワーを活用しましたか。	Q13	1.87			
	授業に対する教師の熱意を感じましたか。	Q14	3.61	Q16	3.72	-0.11

表1 年度間比較 (H26年度とH27年度)

<H26年度からの削除項目>

- ・大学の授業にふさわしいレベルの内容を学べたと感じましたか
- ・授業に満足していますか
- ・授業はあなたのためになったと思いますか
- ・この授業の履修を他の学生にも薦めたいと思いますか
- ・質問には丁寧に対応してくれましたか

◎<H27年度 質問項目>

- Q1 授業はシラバスの内容に沿ったものでしたか。
- Q2 授業の進度は適切でしたか。
- Q3 授業内容を理解するためには普段の予習や復習が必要不可欠でしたか。
- Q4 予習や復習をしましたか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (新設)
- Q5 授業中は質問や発言がしやすい雰囲気でしたか。
- Q6 授業中質問や発言をしましたか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (新設)
- Q7 授業内容は理解できましたか。
- Q8 授業はあなたの知的好奇心を刺激しましたか。
- Q9 教師の話し方は明瞭で聞きとりやすいものでしたか。
- Q10 教師の説明の仕方は分かりやすかったですか。
- Q11 資料(板書、プロジェクター、配布資料等)の内容は明瞭に見てとることができましたか。
- Q12 授業は時間通りに行われましたか。
- Q13 オフィスアワーを活用しましたか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (新設)
- Q14 授業に対する教師の熱意を感じましたか。

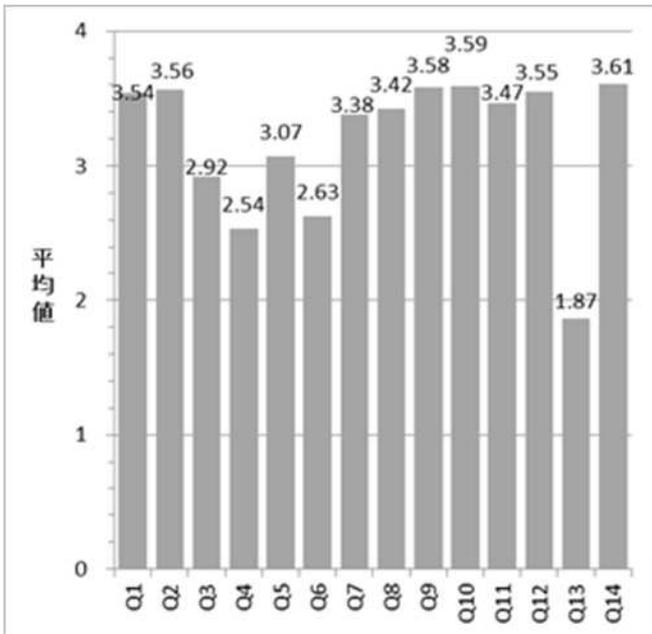


図1 各質問項目に対する全科目の平均値

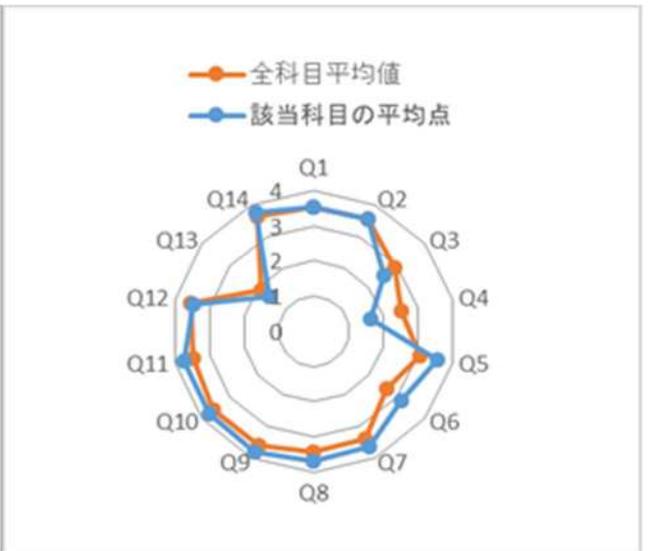


図2 各教員に返却した図の例  
 該当科目と全体の平均が比較できるようにした。周囲の数字は質問項目、円内の数字 0~4 は平均点を示す。

## 2章 平成27年度前期・後期教育学部授業公開報告

### 1. 授業公開の実施計画

鹿児島大学ファカルティ・ディベロップメントに関する指針にあるFDの定義には「～教員が、本学の教育理念を実現するために、カリキュラム及び授業の内容や方法を開発・改善することにより、教育の質の向上をはかるとともに、学生支援を行う自発的な取組」とあり、各教員が自発的に自身の教育方法を向上・改善させて行くことが求められている。また、本学部の教育改善委員会においても「教員同士が相互に授業を公開・参観することにより、各教員が授業方法・授業運営の改善をはかり、教育の質的向上を目指す」ことを目的に設定し、継続的に授業公開・参観を実施している。

昨年度までの実施状況を顧みると、参観数の減少傾向はとまり、少ないながらも一定数を維持している。原因はいろいろと考えられるが、この企画の開始当初に比べて教員自身の意識が低下しているのか、授業参観に参加する教員の固定化が要因であると考えられる。また、授業参観の計画も、各教員が授業を一つ提供するものであるため、参観者自身の時間割との重複等もあり、参観機会が限られていることも参観者数が少ない原因であると考えられた。そのため、昨年度からは一人でも多くの教員に参観の機会を提供すべく、前期と後期にそれぞれ授業参観期間を設けた。参観機会の増加とともに参観者数の増加が期待されたが、一昨年と比較してほとんど改善は見られなかった。そこで、今年は前・後期ともに参観期間を設定し、参観者の希望があれば授業者と相談の上、提供授業一覧に記載のない授業も参観可として授業公開を実施した。

#### (1) 授業公開の枠組み

実施方法は、基本的に昨年度の方法に準拠して行った。教育学部所属の教員に必ず一つは提供するよう依頼し、提供された授業公開科目一覧表をもとに参観する教員が授業提供者に事前に連絡し、確認を行ってから当日に参観する方法を行った。

#### (2) 授業公開科目の調査

前期授業公開については、事前に教授会で報告した後に平成27年5月20日(水)～5月29日(金)の期間で授業公開に関する調査を行った。調査内容は、①授業公開実施科目名(曜日・時限・科目名・講義室)、②受入可能人数(人数を指定する場合、人数を記載)であり、それらを各専修世話人に報告してもらい、専修世話人は、それらを一覧表にして教育改善委員会の担当者にメールで転送をしてもらった。

後期授業公開も同様の内容の調査について、教授会で報告後、平成27年11月18日(水)～11月27日(金)の期間で授業公開に関する調査を行った。

#### (3) 授業公開科目一覧と授業参観報告書書式の提示

各専修世話人から提出された資料を集約し、前期授業公開については平成27年6月3日(水)に、また後期授業公開については平成27年12月2日(水)に教育学部全員に授業公開科目一覧表と授業参観報告書の書式を配布するとともに、授業公開実施要項を提示した。各教員の諸事情により授業公開科目一覧表の内容に変更等が生じた場合は、その都度訂正版を全教員に配布した。授業参観者は、授業参観報告書を提出することを原則とした。また、授業公開科目一覧表は、本学の他学部に対しても送付された。

#### (4) 授業公開及び授業参観の実施

前期授業公開期間は平成 27 年 6 月 8 日（月）から 7 月 10 日（金）までを、また後期授業公開期間は平成 27 年 12 月 7 日（月）から平成 28 年 1 月 22 日（金）までとし、この期間中に各教員は、授業公開および授業参観を実施した。

#### (5) 授業参観報告書の提出

授業を参加した教員は、前期授業公開については平成 27 年 6 月 8 日（月）から 7 月 24 日（金）までに、また後期授業公開については平成 27 年 12 月 7 日（月）から平成 28 年 1 月 22 日（金）までに授業参観報告書の提出することが求められた。

#### (6) 授業公開のまとめ

提出された各教員の授業参加報告書をもとに、教育学部教育改善委員会が集約、整理を行った。

## 2. 授業公開の実施状況

授業参観報告書を集計、整理した結果、平成 27 年度教育学部授業公開の実施状況は以下の通りであった。

### (1) 授業公開科目数

前期授業公開については、公開科目として 88 科目の登録があった。このうち 1 科目は、6 名の教員の連名で登録があったものである。また一つの科目を複数名で担当している授業については、それぞれの担当日ごとに登録されているケースがあった。また、一つの科目を複数の場所で別れて開講しているものもあるが、これらは一つの科目として取り扱っている。授業内容や進捗の関係で、公開授業日を指定されている授業もあり、これらは公開科目一覧表に全て記載した。参加教員数は、92 名であった。理由を確認してはいないが、授業提供のない教員が 1 名、病気療養中のため授業を提供できなかった教員が 1 名、長期在外研修のため参加できなかった教員が 1 名いたが、ほぼ全ての教員から授業の提供があった。

後期授業公開については、公開科目として 96 科目の登録があった。一つの科目を複数名で担当している授業について、それぞれの担当日ごとに登録されているケースがあった。参加教員数は、96 名であった。病気療養中の教員及び長期在外研修の教員以外の全ての教員から授業の提供があった。

### (2) 授業参観件数

前期授業参観について、提出された授業参観報告書は 30 通であり、昨年度の 27 通（後期実施）より若干増加した。しかし、後期授業参観については、提出された授業参観報告書は 12 通であり、前期に比べると大幅に低下している。

平成 23 年度の授業公開から、参観者は 20 名から 30 名の間で推移しており、作年度から授業公開の期間を 2 期設定しても、あまり改善は見られなかった。特に後期授業公開については前期との組合せの意味で行う旨を広報していたのが減少の理由に考えられるが、後期のみ参観を行なった教員も 2 名いたことから、少ないながらも授業公開期間を増やしたことの意義はあったと考えられる。

### 3. 授業参観報告書における記述

多くの報告書に共通する内容は、参観でよかった点や工夫や配慮についての具体的な記載であった。以下に「授業参観者が、よい、あるいは取り入れてみたいと評価した授業の方法」と「参観授業の改善のための工夫」の2つにわけて紹介をしたい。

#### 【授業参観者が、良いあるいは取り入れてみたいと評価した授業の方法】

##### 【授業の導入】

- ・ PP 上にキーワードを2回ほど提示し、学生の電子媒体を活用して出席を取るという方法を用いられており、出席確認のための時間短縮や確実性が保障されると思いました。
- ・ 授業の最初で、全体の授業の流れにおける当日の授業の位置づけ、また、当日の授業の流れがよくわかるような説明がなされていて、復習にもつながるものと思いました。
- ・ 前回の振り返りを、口頭だけでなく資料やスライドを使いながら提示しており、視覚を通して確認することができるよう努めていた点が良かったです。また、しっかりと丁寧に振り返りを行っていました。

##### 【授業の展開】

- ・ 講義とあわせて、受講生の興味・関心を喚起するような多くの演習を取り入れておられたことです。具体的に、本授業では、カードソート法とよばれる「キャリア・価値の分析」に関する演習が行われていました。これは、受講生の価値観や人生観などに関する潜在的な認識を顕在化させるものであり、受講生自身の価値観や人生観のみならず、生徒の進路設計や人生設計の指導にも有効であると強く感じました。
- ・ 様々な事例を紹介されながら、生き方について考える機会を受講生に提供されておられたことです。例えば、「ハチドリの一しずく」の童話の紹介およびその検討は、その好例です。
- ・ 受講生同士が刺激しあう工夫がなされ、作品づくりを介してスパイラル的に展開するスタイルの講義であったといえる。
- ・ 学生への発問は、多人数講義ではやりにくい所もありますが、「さあ、皆さんはどうでしょうか」など、上手に間を取ることで、心のうちに考えさせるという方法も取れることを実感することもできました。
- ・ 高校生向けの地理番組を使い、オイルマネーの実際や OPEC の歴史のイメージをつけさせようとされていました。活字資料からだけではイメージしづらいところもあるので参考になりました。
- ・ 重要な用語や説明は書かせるよう穴抜きのプリントとなっていました。統計資料や説明が詰まったプリントで、作成されるのも大変だったと思いました。
- ・ 学生を少人数のグループに分けて、グループ同士を競わせて、グループ内での討論を活発にさせる等、授業方法に斬新な工夫が見られ大いに参考になった。
- ・ 実際に筆を取り手本を示すことはなかったが、「指導言葉のみ」にて、作品づくりの方向性を示唆する手法は、大変参考になったところである。改めて、指導場面における「言葉の価値と意味」について捉え直す機会になった。

- ・初回に「サブノート」を配布しておくことで、次回の授業内容の予習はもちろん、半年間の授業内容を体系的にイメージしやすくなると思いました。私の場合、毎回授業時に資料を配っているのですが、今後、自分の授業にも「サブノート」を取り入れてみたいと思います。
- ・授業の進捗は学生側が教科書やサブノートを読み、疑問に思った点を質問すると、教員側がそれらに答えるという「学生参加型」で行われており、学生の自発的な学びを促すための工夫がなされていました。その他に教員側が回答する際は、必ず質問した学生の名前を呼び（たとえば、〇〇さんが質問したように……）、その学生への正の強化を与える場面も印象的でした。
- ・各人の技能に合わせて難易度が選べるような教材を準備
- ・板書については要点に限っており、そのため学生にとっては重要点を確認しやすく、本単元の全体像が見えていたように思う。これまで板書については省略することが多く、板書の有用性に気づくことができた。
- ・実技指導で、通常の座学の授業とは異なると思っていたが、先生の定位置が後ろにあることに少し驚きを感じた。演奏を聴くためとは思いますが、最初から後ろというのは新鮮だった。指導は、各ペアに対して15分～20分の間で行われていたが、常に緊張感があり、演奏をしていない学生も姿勢を崩している人は見当たらなかった。
- ・明らかに練習不足と思われる学生に対して、同じミスを繰り返すことに対しては、極めて厳しい口調で指導を行われていた。自分の通常の授業ではそのような状況になることはない（最終的に筆記試験を重視していることから）が、実験の授業については自分も厳しい態度で臨むべきだと痛感した。
- ・レポートの書き方を尋ねた際、実験の目的や意義は特に授業では説明せず、自分で考えてレポートに記述して欲しいとのことであった。化学実験では目的等は説明して、意識を持たせてから実験・レポートの作成に取り組んでもらうようにしているため、異なる教育方針が知れたのは興味深かった。
- ・授業評価シートが2領域9観点から構成されており、学生の取り組みをしっかりと看取することが準備されていました。このことで、これまでの授業の理解の程度や模擬授業に向けての準備の程度を的確に評価できるように思えました。
- ・「世界一暮らしやすい国」の日本語資料が配布され、経済格差の及ぼす影響や教育の問題など、学習者はエビデンスに基づき議論することが求められた。さらに、お互いの考えを英語で表現しながら、相手の話を理解し、自ら討論していくアクティビティの高い学習法といえた。
- ・教師からの発問はなかったがパワーポイントを使った資料提示と説明は非常にわかりやすかった。英語の例文も説明に即して覚えやすいものだった。授業の始まりで、前回の授業に対する受講者からの質問に一つ一つ丁寧に答えていたが、これは学習の振り返りと深化・補充にとって効果的なやり方だと思った。質問は授業の最後にカードを配布して記入してもらっていた。
- ・結果を各グループに実際に発表させることなく、机間巡回のあいだに素早く読み取って教員自体がまとめてしまい無駄な停滞を防ぐ。「他のグループからは出ないものを！」等々競技性遊戯性も適宜とり入れられる。クラス・マネジメントと学習内容そ

のもの両面において、ことの軽重を教員があらかじめよく理解していればこそその鮮やかな進行である。

- ・医学系の授業は、どうしても知識注入型の授業になってしまうため、授業中居眠りをする学生が多いが、質問を頻繁にし、表が赤で裏が白のカードで答えさせ、受講生を上手く授業に参加させていたと思う。
- ・プリントに紹介されているものの出展がすぐにわかるようになっていましたので、自分でさらに調べて学習しようとする学生にとって便利だと思います。
- ・実物を用いての観察・実験は、受講する学生の取り組み意欲も高くなるので、学生実験以外の自分の講義の中においても、実物を用いた演示実験や工作、実際の授業状況の提供などを取り入れていきたい。
- ・講義だけでなく、ビデオ視聴を行うことで、教育相談等を行う際の留意点について具体的に学ぶことができていると思った。第12、13講では県総合教育センターの教育相談課を訪問して、本県における教育相談の現状を学ぶことも計画されており、座学中心ではないシラバスであることも確認できた。
- ・本時授業前に Moodle で授業用ノートが配布されており、受講学生が持参することになっていた。また、講義の要点がプレゼンテーション資料として提示されていた。
- ・全体指導のあとの個別指導では、学生各々の適性に応じた、詳細で具体的なアドバイスが見られ、指導を受けた学生の技術的向上がすぐにあらわれていた。
- ・練習用も兼ねた詳細な印刷資料も配付され、文字だけでなく図もふんだんに使われており、たくさんの情報を効率的に吸収しやすいように作成されていた（しかも、内容だけでなく見た目にも大変美しいものであった）。
- ・また授業計画の発表後には、他のグループによる相互評価（共感できる部分、異議を唱える部分）のメモがフィードバックされ、次回授業までに再検討した授業計画を提出することになっていた。これにより授業での発表がやりっぱなしで終わらず、授業計画の質をより高めて終わることが可能となる。学生が活動する授業の質を高めるには、授業者による事前、本時、事後の綿密な計画が重要であると感じた。
- ・学生とのコミュニケーションや話す内容等について、大人数講義でも対話的に、そして興味を引き付けられる小技が参考になった。具体的には、①時折疑問を投げかけ、学生同士で話し合う活動を入れるとともに、一番後部に座る学生を指名する、②試験の出題に関わる話を挟んで注目を集める、③鼻を噛んでうるさい学生のよろしくない行動に対して笑いで対処する等を真似たい。
- ・アクティブ・ラーニングの授業とは、このようなものかという典型を参観させていただいた。このような展開への準備や工夫に費やす時間とエネルギーは膨大になるだろうと感じたが、学生の参画状況や満足度は非常に高いだろうと思いました。
- ・パワーポイントでなく、資料を配布し、学生の注目度をチェックしながら進める授業の内容は、ともすれば私のパワーポイント中心の授業と異なり、参考になった。

### 3章 教育学部・教育学研究科合同FDシンポジウム

#### 1. FDシンポジウムの目的

学生の視点から教育活動の実態について調査・報告をおこない、改善策を提言することが主な目的である。また、今後の継続的な活動のために記録を蓄積し活用できるようにすることも重要な目的である。

#### 2. FDシンポジウムのテーマ

シンポジウム開催前に学生FD委員によって取り上げるべきテーマが議論され、学生に対するアンケート調査も併用して下記のテーマが決定された。最初のテーマは、今年度新たに設立されたアクティブラーニングプラザに対して学生たちがその利用法を主体的に決めるために設定されたものである。また、後者の2つは教育内容をより良くするためという視点から選ばれたものである。

- (1) 第二講義棟(アクティブラーニングプラザ)の利用法について
- (2) 履修に関して(時間割を含む)
- (3) 大学内施設の利用について

#### 3. スケジュール

日時:平成27年12月22日(火)

- |           |               |
|-----------|---------------|
| 1. 受付     | 13:50 ~ 14:00 |
| 2. 基調報告   | 14:00 ~ 14:30 |
| 3. グループ討論 | 14:40 ~ 15:40 |
| 4. 全体報告   | 15:50 ~ 16:50 |

#### 4. 基調報告

後の集団討論が円滑に進むように教員3名(瀬筒委員, 錦織委員, 池川委員長)による基調報告がなされた。まず瀬筒委員から、9月に行われた学生FDサミットの参加報告がおこなわれ、各大学の学生FD委員の取り組み等が報告された。錦織委員からは、教育学部のカリキュラムの特徴や第二講義棟の設立目的といった今回のテーマに沿った内容についての概説がおこなわれた。池川委員長からは、学生FD委員の設立当初の様子からなぜFDが必要なのかという理念までのより広い包括的な報告がおこなわれた。

## 5. グループ別討論会および全体報告会

各グループは学部生(主に3年生)5～6名, 大学院生1～2名, 教員1～2名を基本単位とした。下記は学生FD委員が, それぞれのグループで話し合われた内容等についてまとめたものである。

### Aグループ

- アクティブラーニングプラザに関して
  - ・駐車場に屋根が欲しい。
  - ・部屋ごとに使用方法を決める。(学習/娯楽スペースの区別)
- 履修登録・時間割に関して
  - ・履修登録の説明を詳しくする。(例:教育課程の見方を詳しく。)
  - ・エントリーを同じ時間に何枚も出したい。
- 大学内施設に関して
  - ・エデュカにATMを設置する。
  - ・売店の時間を少し遅くしたい。

### Bグループ

- アクティブラーニングプラザに関して
  - ・プラザ内で目的ごとに部屋を作成する。
  - ・時間外の使用に関しては, 1, 2年生は申請制にする。
- 履修登録・時間割に関して
  - ・免許取得, あるいは卒業までにあとどれくらい単位が必要なのか確認するのが容易にできるシステムを作って欲しい。

### Cグループ

- アクティブラーニングプラザに関して
  - ・使用時間の提示をする。
  - ・部屋の使い分け。
  - ・ゴミ・空気などの環境整理をする。
  - ・掃除道具・ゴミ箱の設置をする。
  - ・ボランティアサークルで清掃活動を行う。
- 履修登録・時間割に関して
  - ・履修登録の時間・期間の改善をする。(例:エントリーシートの受付を24時間可能にする。2日間の受付にする。)
  - ・共通科目の授業と実習が重なる。
  - ・共通教育で抽選が落ちた後の履修登録方法を改善してほしい。
  - ・専修ごとに履修登録の例を提示してほしい。
- 大学内施設に関して
  - ・ATMを設置してほしい。
  - ・施設のバリアフリー化。

- ・駐輪場の増設をしてほしい。
- ・クーラーの調節を学生自身でもできるようにしてほしい。
- ・コピー機を設置してほしい。

#### Dグループ

##### ○アクティブラーニングプラザに関して

- ・1階の使用方法。
- ・暖房について。

##### ○履修登録・時間割に関して

- ・集中講義と実習が重なる。
- ・大学院の夜間講義の単位取得の難しさ。
- ・履修したい講義が重なっている。

##### ○大学内施設に関して

- ・エデュカのコピー機について。
- ・冷水器の設置をしてほしい。

#### Eグループ

##### ○アクティブラーニングプラザに関して～

- ・エアコンの暖房の設定温度が19℃と低い。
- ・ATM, ブラインド, コピー機 (USB対応), 冷水器が欲しい。
- ・部屋の使用方法を明確にする。
- ・決まったルールは張り出す等して全員に知らせて欲しい。

##### ○履修登録・時間割に関して～

- ・講義の改善をしてほしい。
- ・履修登録に関する一連の流れを改善してほしい。

##### ○大学内施設に関して

- ・エデュカの営業時間を延長してほしい。
- ・理系棟のトイレの電気, 音姫, CALL教室, 教育学部の案内地図を改善してほしい。
- ・ゴミ箱, ポストを増やしてほしい。
- ・駐輪場の屋根を設置してほしい。
- ・警備員さんへの待遇に関して。(例: 制服をそろえる, 待機室を設置するなど。)

## 6 全体討論会での議論 (学生FD委員によるまとめ)

### (ア) ATM設置, コピー機の無料使用に関して

ATMは昔, 教育学部キャンパスにもあったが, 設置者に何らかの理由があったため, 撤去されてしまった。もし, 設置をしたいのであれば外部機関との打ち合わせが必要なため, なかなか実現が難しいと思われる。

以前はコピー機が無料で使えたということだったが, 現在は有料なため, 卒論などで大量に印刷すると莫大な費用がかかるという意見があった。しかし, それは教員側も同じであり, 学生だけが無料で使うというのはなかなか難しいということだった。しかし, 今後の話し合い次第で

は料金を引き下げることが可能かもしれないということだった。

(イ) アクティブラーニングプラザの利用方法に関して

アクティブラーニングプラザは設立後間もないため、利用に関する規則等が曖昧である。これからのFD委員会の話し合いで詳細な利用法を作成するという方針となった。

(ウ) 科室の設置に関して

一部の専修では科室がなく、自分達が勉強できるスペースがないという意見があった。教員側の意見では、科室の設置は教員が必要か否かによって設置の有無が決まっているということだった。これに関しては各専修の学生と教員との問題になるということだった。

(エ) 学校生活に関するアンケートに関して

大学院生の意見で、学校生活に関するアンケートがおこなわれていたということを知らなかったというものがあつた。この件に関しては、学部生FD委員会が大学院生も参加するということを知らずにおこなったためである。今後は、大学院生にもアンケートを取っていきたいと思う。

## 4章 学生FDサミット2015夏

日時：2015年9月2日(水)～3日(木)  
会場：追手門学院大学(大阪府茨木市)  
参加：64大学 481名



追手門学院大学(大阪府茨木市)

### 1 活動内容

#### 【1日目 9月2日(水)】受付9:15～

- 10:00～11:30 オープニング（開会宣言，学長あいさつ，趣旨説明 [Missionの確認]）
- 11:40～12:50 昼食（アイスブレイク）
- 13:00～14:00 他大学の事例発表（岡山，京都文教，芝浦工業&追手門学院，山口大）
- 14:15～16:10 パネルディスカッション（テーマ「本当に大学が“よく”なっている！？」）
- 16:10～16:20 1日目の振り返り
- 17:30～19:00 懇親会

#### 【2日目 9月3日(木)】受付9:15～

- 10:00～11:00 オープニング（1日目の振り返り，2日目のプログラム説明）
- 11:20～13:30 しゃべり場①—活動年数別—（昼食込み）
  - テーマA 活動2年以上「今後の学生FDはどうなるのか？」
  - テーマB 活動2年未満「私たちが大学をよりよくするためには？」
- 13:50～14:50 しゃべり場②—各大学別—
  - 「2日間の内容を通じて感じたことの共有と，自大学に持って帰るものはなにか，また自団体はこれからどのような活動をしていくべきなのか！？」（アクションプランの作成）
- 15:00～15:50 各大学発表
- 16:10～16:40 フィナーレ

### 2 活動詳細

#### (1) 活動の整理【活動象限】

本サミットのオープニングにあたり，活動象限という座標軸を用いて，自大学の活動を整理する作業を行った。大学を良くしようとして行っている活動が学生，教職員いずれに向けてのものなのか，また向上，改善のいずれのためなのかを整理しながら活動象限に書きこむことで，活動の本質を捉えようとする方法である。図1は，本学部における教育改善活動の「授業公開」，「授業アンケート」，「教育学部・教育学研究科合同FDシンポジウム」を活動象限に当てはめたものであるが，「学生」周辺の事象が少ない。本

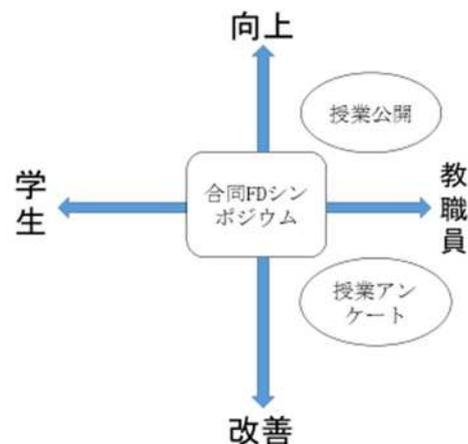


図1 自大学の活動の整理【活動象限】

学部は、学生主体のFD活動に関しては、今後進展の余地を残した初期段階にあると言える。

## (2) 他大学の事例発表【他大学の活動を知る】

学生FDの活動が盛んな五大学が発表を行った。発表を聞くうちに本学部の学生FD活動は初期の段階に位置することが分かり、それ以後は本学部に持ち帰ることができる有用な情報や活動はないかという観点で発表を伺うことになった。岡山大および芝浦工業大の発表の要旨は図2に示した。その他、追手門学院大学の発表では、「A悩む教師」（座席の位置によって集中度、理解度に差があるのではないか。）、「B葛藤する教師」（なぜ学生は消極なのか、教科書を変えるべきか。）、「C更なる向上を目指す教師」という3つの教師像を目指して学生主体の授業改善活動が行われているという報告があった。追手門学院大や芝浦工業大では、授業改善の要望や提案をFDに関する専門的な学びを経た学生が直接教師に伝えて支援するシステムを構築している。学生FD活動が盛んな大学には、①FDを研究あるいは強力に押し進める教職員の存在がある、②FD活動を日常的に行う5～10名程の小組織（サークル、生徒会のようなもの）が存在する、という共通点が見られるようである。本学部のように、学生FD活動の初期にあたるような場合は、当面図2の岡山大学のような組織を目指すことが妥当なのではないかと考えられる。

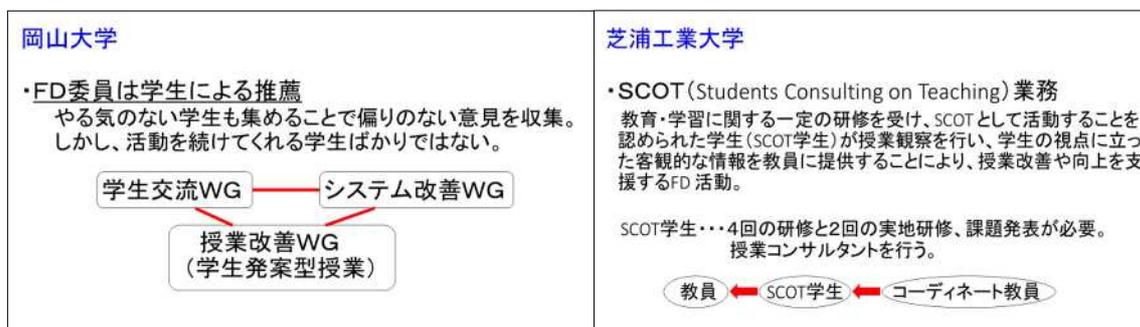


図2 他大学の事例発表 学生ができる学生FD活動の実例

## (3) パネルディスカッション【視野を広げる】「本当に大学が“よく”なっている!？」

3名の研究者が学生FDの歴史や課題について述べられた。要旨を整理して示す。

- ・学生FDに専門性があった方が、成果が目に見えやすいのではないか。
- ・学生FDの専門性は必要ではなく、意欲、向上心を大切にしたい。
- ・学生FDの活動を支援する教職員には、専門性が必要である。
- ・学生が授業改善に主体的に関わり、大学は学生と連携する。
- ・モチベーションの保持（成長している実感や目的の共有）
- ・コミットメントが必要（学生のアンケート結果を確実に活かす）

## (4) しゃべり場【アクションプランの作成】～各大学発表【決意表明】

他大学の教員や学生と5名程度のグループを形成、KJ法によって自大学の長所・短所を書き出して紹介また他者の考えを聞き合った。よりよいしゃべり場にするため、相手の話に耳を傾ける、積極的に話し合いに参加、些細なことでも発表、みんな明るく笑顔で議論する等は、他のコミュニケーション場面にも応用できる。その後は各大学のグループに戻り、今後のアクションプランを考えて、決意表明としての最終発表を行った。本学部から参加した学生2名は、まずは学生FD委員会の周知が必要であると考えたようである。

## 5章 平成27年度教育学研究科教育改善のための意識調査

### 1 はじめに

本学大学院教育学研究科は、改組後7年目を迎えると共に、教職大学院の創設に向けて、大きな転換期を迎えつつあるといえる。過渡期にあっても教育学研究科の教育・研究の水準を確保し発展させていくために、毎年大学院生を対象に教育改善のための意識調査が実施され、結果を考慮しながら、教育・研究環境の改善が図られているところである。

例年挙げられる課題としては、授業内容・授業形態にはおおむね満足しているが、研究・学習環境では改善を求めている状況があり、また、昨年は新たに今後の研究の方向性について調査を行ったところ少数の結果ではあったが十分なサポートを受けていない状況が窺われた。

これらの課題点を踏まえ、教育改善のためのさらなる示唆を得ることを目的とし、本年度も引き続き意識調査を実施し分析する。

### 2 意識調査の実施方法

平成27年度の教育学研究科大学院生による授業アンケートを以下の手順により実施した。

- 1) 調査期間：2016年1月12日（アンケート配布開始）～2月5日（回収締切）
- 2) 対象：教育学研究科全学生（1年生38名、2年生39名、計77名）を対象とした。回収数は27名（1年生17名、2年生8名、学年不明2名）、回収率は35.1%であった。
- 3) 手法：アンケート用紙（別紙1）にて無記名自記式アンケートとした。
- 4) 配布方法：研究科運営委員より学生に配布
- 5) 回収方法：アンケートBOXを事務室に設置した。
- 6) 集計方法：2016年2月末に集計および分析を行った。なお、分析において無回答は省いた。

### 3 意識調査の質問項目（資料1参照）

調査項目は、1「研究科共通科目」・「コース共通科目」等の授業、2「学修コース専門科目」等の授業、3研究・学習環境、4今後の研究成果の発表予定、5その他、要望・意見について、一部選択式を併用し、それぞれ満足している点、改善してほしい点等を自由記述で回答を求めた。

### 4 調査結果

- 1) 「研究科共通科目」・「コース共通科目」等の授業について

#### (1) 満足している点（表1-1）

満足している点について、「院生同士の交流」10名（38.5%）が最も多く挙げられ、次いで「講義内容・教員」9名（34.7%）、「オムニバス形式」8名（30.8%）、「カリキュラムの設定」3名（11.5%）、「その他」1名（3.8%）の順であり、「特にない」は2名（7.7%）であった。結果からは、他分野の院生や現職の教員との交流による学びが述べられ、今後、教職大学院教育が開始されるにあたり、良好な環境が醸成されていることがわかる。このような交流は、多様な専門性を有する教員が、講義内容の工夫や采配ができており、オムニバス形式という本共通科目の特色が十分に機能していることにも支えられている様子が窺える。また、夜間教育への配慮やシラバスの明確化などの対応もカリキュラム遂行へのサポートとなり、満足感につながっていることがわかり、今後も継続されることが望まれる。

表1-1 「研究科共通科目」・「コース共通科目」等の授業における満足している点 (複数回答) (n=26)

満足している点	項目	具体的内容	人数(%)
	院生同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役の先生や留学生、ストレートマスターなど、幅広い年代の人々と意見を交換できること。</li> <li>・現職の先生方や社会人、様々な専門分野のストレートマスターと関わるができるから。</li> <li>・現職の先生方や他コースのストレートマスターの皆さんと意見交換ができ、自分の知見を広げることができること。</li> <li>・現職の先生方とともに教育について学ぶことで視野が広がった。</li> <li>・他の専修、現職の先生方との意見交換ができ、見聞を広めることができたから。</li> <li>・他の大学院生との意見交換や話し合いで理解を深めることができ満足している。</li> <li>・他教科専修の方たちと意見交換ができる点。</li> <li>・同じ学年の人と一緒に受けられる講義が多いため、とても楽しく良い刺激を受ける。</li> <li>・科の共通は同じ学年の人たちが集まり、いろいろな人と学びあえて充実していたと思う。</li> <li>・皆と一緒に授業ができて、よくコミュニケーションができます。</li> </ul>	10(38.5)
	授業内容・教員の指導態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部の時には学べなかった内容を勉強できること。</li> <li>・実践的内容や理論的内容など多岐にわたっており満足している。</li> <li>・先生方の講義や意見を聞くことで見聞を広めることができたから。</li> <li>・先生方の授業は面白かったです。</li> <li>・講義のスタイルが参加型のものが多く、意見を発しやすい雰囲気と他者の意見を多く聞けるところが良い</li> <li>・必修なので様々な先生方と学ぶ機会があり、多くの学びを得られる。</li> <li>・共通教育の各分野をそれぞれ特徴的に分けて詳しく勉強する機会がありましてありがたいです。</li> <li>・特別支援教育や学校マネジメント等幅広く学ぶことができ良かったです。</li> <li>・教育マネジメント特論は特に内容が面白く、勉強になった。</li> </ul>	9(34.7)
	オムニバス形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目がオムニバス授業のため、様々な先生の講義を受けることができる。</li> <li>・オムニバス形式になっているので、いろいろな視点から講義が受けられるのは良いと思う。</li> <li>・オムニバス形式である点。</li> <li>・オムニバス形式で、いろんな先生の考えを聞くことができ、視野が広がる。</li> <li>・オムニバスの授業が多く、多様な内容の講義を受けられて満足している。</li> <li>・オムニバス形式の授業では担当の先生同士でしっかり連携が取れているように思います。</li> <li>・先生方の授業をオムニバスで受けられるということに関しては、様々な視点から教育を学ぶことができたので満足しています。</li> <li>・1つの講義で複数の先生の話聞くことができ、1つのテーマ(科目)でも内容・視点がいくつもあることが分り良かった。</li> </ul>	8(30.8)
	カリキュラムの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムが充実していた。</li> <li>・夜間に設置しているので、社会人にも夜間の人にも考慮している。</li> <li>・シラバスを示し分かりやすい。</li> </ul>	3(11.5)
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足しているというほどではないが、学ぶ者にとっては、どのような条件でも謙虚に受け入れるべきだと思っている。学問は分野が異なってもどこかに共通性があるものだと感じた。</li> </ul>	1(3.8)
特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にありません 等</li> </ul>	2(7.7)	

(2) 改善してほしい点 (表1-2)

改善してほしい点については、「特にない」13名(56.5%)が最も多く、次いで「授業時間の延長」4名(17.4%)、「宿題・課題」3名(13.0%)、「カリキュラムの設定」3名(13.0%)が同率で、「その他」1名(4.3%)の順であった。改善してほしい点が「特にない」者が約半数以上ということで、「研究科共通科目」「コース共通科目」における満足感の高さが窺える結果であった。しかし、次に多かった「授業時間の延長」に関する事項は、毎年(平成23年～)改善してほしい点として挙げられている事項であり、授業時間の延長は教員の熱意の表れと考えられるが、改善を促していく必要がある。また、「課題・宿題」に関しては、授業時間以外でのグループ活動に不自由さを抱えている様子が窺え、教員の配慮が求められる。「カリキュラムの設定」の事項は、共通科目の受講を希望する院生の意欲から出た積極的な要望であり、可能な限りの検討をしていければと考える。

表1-2 「研究科共通科目」・「コース共通科目」等の授業における改善してほしい点 (複数回答) (n=23)

改善してほしい点	項目	具体的内容	人数(%)
	授業時間の延長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間内に授業が終わらない点。20:30に授業が終わるはずなのに、キリが悪いと1時間も授業が延長したことがあった。限度があると思う。</li> <li>・授業時間を守ってほしい。毎回オーバーしたが長い時で1時間オーバーした。次の日のことや行き帰りのこともあるので、6限は特に時間を守ってほしい。</li> <li>・とても良い授業ばかりですが、ほとんど5分は遅く終わります。長い時は30分～1時間も超過します。それぞれ用があるのでPMB:30にはしっかり終わってほしい。</li> </ul>	3(13.0)
	課題・宿題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内で他の院生との話し合いを通してグループ発表を行うときがあるが、授業時間外では集まりづらく、十分な話し合いを経たグループ発表ができなかった。</li> <li>・授業でのグループ活動の時間を増やしてほしい。</li> <li>・レポートが多い。</li> </ul>	3(13.0)
	カリキュラムの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科共通科目をもう少し増やすことはできないでしょうか(専攻の知識だけでなく教育における諸問題を様々な視点から見て学ぶことができるとも勉強になったため)。</li> <li>・コース共通は開講されないものもあり困る。</li> <li>・複数の先生の講義を受けることができるメリットはあるが、15回というのは短いと思う。学部共通英語のよ</li> </ul>	3(13.0)
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の変わりは早いです。1人の先生の授業はまだ十分把握しないうち別先生になりました。</li> </ul>	1(4.4)
	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にありません 等</li> </ul>	13(56.5)

2) 「学修コース専門科目」の授業について

(1) 満足している点 (表 2-1)

満足している点については、「専門科目の充実」9名(40.9%)、「専門科目の多様性」8名(36.4%)、「個に合わせた授業・対応」6名(27.3%)、「少人数制の授業」2名(9.1%)、「その他」2名(9.1%)、「特にない」1名(4.5%)の順であった。

項目	具体的内容	人数(%)
満足している点	専門科目の充実	9(40.9)
	専門科目の多様性	8(36.4)
	個に合わせた授業・対応	6(27.3)
	少人数制の授業	2(9.1)
	その他	2(9.1)
	特にない	1(4.5)

「専門科目の充実」と「専門科目の多様性」が多く挙げられていることから、専門科目が充実し、関連する学修コース内の他分野を学ぶことでさらに深まる相乗効果を持ったものになっている様子が窺える。また、専門科目を学ぶにあたっては、「個に合わせた授業・対応」「少人数制の授業」といった院生の状況や研究の方向性に合せて意見を出しやすく、汲み取りやすい対応がなされていることが、満足感に影響していることが分かった。今後も継続していく必要がある。

(2) 改善してほしい点 (表 2-2)

改善してほしい点とその理由については、「特にない」16名(69.6%)で最も多く、次いで「カリキュラムの設定」4名(17.4%)、「授業内容・教員の指導態度」3名(13.0%)、「その他」1名(4.3%)の順であった。「特にない」は約7割が選択し、『共通教育科目』群より満足感が高い状況が窺える。「カリキュラムの設定」においては、専門科目数の増加を希望する者、免許単位の互換を希望する者、学修コースのくりに違和感を持つ者など多岐にわたっており、改善に値するかは検討が必要であろう。「授業内容・教員の指導態度」についても、教育の観点で専門科目を見つめたいという者、自己の発表より講義を求める者、教員にやる気を求める者など様々である。また、少数意見ではあるが、「その他」で授業内容がシラバスと異なっているとの指摘があり、全教員が今一度確認しておく必要がある。

表2-2 「学修コース専門科目」の授業における改善してほしい点 (複数回答)(n=23)

改善してほしい点	項目	具体的内容	人数(%)
	カリキュラムの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>学修コース専門科目の選択の幅を広げるために科目を増やすことはできないでしょうか。</li> <li>特別支援の専修免許の単位を取ろうとすると、他の校種の単位に回すことができず、また、科目を取るためのコマも制約されてしまう。互換性は何かならないでしょうか。</li> <li>学修コースのくりが難しいと感じる(国語と英語、音楽と体育など大きいくりでは同じかもしれないが、もっと専門にふれた方がよいと思う)。</li> <li>前期は特にゆとり授業を選びたかった。もう少し日程にゆとりがほしい。</li> </ul>	4(17.4)
	授業内容・教員の指導態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば歴史学と歴史教育というように、1つの学問分野を教育の観点から見て扱うような授業があると、より学びが深まると考える。</li> <li>発表が多くて先生からも専門の知識をいろいろ教えていただきたいです。</li> <li>やる気のない先生も多い。</li> </ul>	3(13.0)
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容がシラバスと異なっている。</li> </ul>	1(4.3)
	特にない	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし 等</li> </ul>	16(69.6)

### 3) 研究・学習環境について

#### (1) 満足している点 (表3-1)

満足している点については、「院生室・研究室」9名(40.9%)で最も多く、次いで「施設全般」3名(13.6%)、「トイレ」3名(13.6%)、「図書・図書館」2名(9.1%)、「WiFi環境」2名(9.1%)、「その他」4名(18.1%)、「特になし」4名(18.1%)であった。

毎年(平成23年～)挙がっていた事項であるが、「院生室・研究室」が個人に確保されていることは研究・学習環境の満足感に大きく影響している。また「施設全般」「トイレ」「WiFi環境」といった項目で満足している点が多く挙げられ、本年度の開棟に至ったアクティブラーニングプラザの存在により、院生の研究・学習環境はさらに整ったことが窺えた。

表3-1 研究・学習環境について満足している点 (複数回答)(n=22)

満足している点	項目	具体的内容	人数(%)
	院生室・研究室	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の研究室があるから。</li> <li>院生室は学習に適しており満足している。</li> <li>院生用の研究室があり、集中して研究に取り組みました。</li> <li>研究室が設置してあったこと(研究室のおかげで集中することができたから)。</li> <li>院生室があり研究する環境が整っている。</li> <li>研究室の設備、個人の融通が利く等素晴らしいものだと感じる。</li> <li>院生室は使いやすい環境も良い。</li> <li>いい研究室があって、楽な環境があって、ありがたいです。</li> <li>資料などが研究室もよく深く調べられる。</li> </ul>	9(40.9)
	施設全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備が整っているため過ごしやすい(音美棟)。</li> <li>設備もちゃんと備えていて、ありがたいです。</li> <li>アクティブラーニングプラザが10月から使用でき、快適に学習ができる。</li> </ul>	3(13.6)
	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレ設備がきれいになった点</li> <li>アクティブラーニングプラザができ、トイレ等利用しやすくなった。</li> <li>トイレにバックをかけるフックが設置されたのがとても助かっている(音美棟)。</li> </ul>	3(13.6)
	図書・図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料などが図書館もよく深く調べられる。</li> <li>図書さえたくさん揃い、自由に見れるようになっておればそれ以上のことはない。</li> </ul>	2(9.1)
	WiFi環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>WiFiが前より届くようになった。</li> <li>WiFiが使える場所が増えて勉強しやすくなった。</li> </ul>	2(9.1)
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>不自由するところはない。</li> <li>今のところでは、概ね満足している。</li> <li>普通だと思っています。</li> <li>先生からいろいろなアドバイスもさせていただきます。</li> </ul>	4(18.1)
	特にない	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし 等</li> </ul>	4(18.1)

#### 2) 改善してほしい点 (表3-2)

改善してほしい点は、「特にない」7名(28.0%)が最も多く、次いで「施設全般」「トイレ」がそれぞれ4名(16.0%)、「空調」「院生室・研究室」「専攻別での研究環境の差」がそれぞれ3名(12.0%)、「WiFi環境」「その他」がそれぞれ2名(8.0%)であった。改善してほしい点が「特にない」者は約3割で、『共通科目群』『学修コース専門科目』等の授業に比較すると、改善の要望が多いことが窺える。

表3-2 研究・学習環境について改善してほしい点

(複数回答)(n=25)

改善 して ほ しい 点	項目	具体的内容	人数(%)
	施設全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングプラザの入室・入棟できる時間をしっかり提示してほしい。</li> <li>・学内は汚い(廊下など)。アクティブラーニングプラザは特に汚れが目立つ。新しいのもっていない。学生が自ら掃除できるよう掃除用具を1セットでもほしい。</li> <li>・ブラインドが壊れており大変困る。</li> <li>・音美棟に運搬用エレベーターを設置してほしい。</li> <li>・文系棟1階に自動販売機を設置してほしい(外に出る手間がかかるため)。</li> </ul>	4(16.0)
	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エデュカのトイレ設備の改善。</li> <li>・理系棟等もきれいにしてもらえるとうれしいです(トイレ等)。</li> <li>・トイレの掃除用具は必要。</li> <li>・トイレが掃除をしている様子がなく、気づいたときは掃除をしたいので、手洗い場にスポンジ、トイレ掃除のブラシを置いてほしいと思います。</li> </ul>	4(16.0)
	空調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングプラザの教室の空調が悪い(暖房等がきかない)。</li> <li>・文系棟、理系棟、音美棟、体育棟とすべて使用したが、棟によってクーラーのきき方が全く違う。特に音美棟は夏が大変で改善が必要であると思う。</li> <li>・暖房の温度設定が寒すぎる点。</li> </ul>	3(12.0)
	院生室・研究室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院生室の机の使用状況が分かりづらい。</li> <li>・ちょっと室が狭くて皆が全員では混んでいました。</li> <li>・パソコンも1台だけでは足りないです。</li> <li>・白黒コピーしかできない。</li> </ul>	3(12.0)
	領域別での研究環境の差	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻によって設備にばらつきがある。</li> <li>・科によって様々(パソコン・プリンター・WiFi環境、部屋等)で、同じ学費を払っているのに不平等などと感じることも多い。なぜこんなに科によって異なるのか教えてほしい。</li> <li>・プリントアウトできる環境・設備、または規定が一定でないように感じる(他の院生がどのようにして印刷しているのかを知りたい)。</li> </ul>	3(12.0)
	WiFi環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WiFiが通っていればよりよかった。</li> <li>・WiFiもないですが、ちょっと不便です。</li> </ul>	2(8.0)
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CiNiiで検索して表示される論文をもっと増やしてほしい。</li> <li>・大学院生は夜遅くまで研究室にいることも多いので10Km以上でなくても車の入構許可を出してほしい。</li> </ul>	2(8.0)
	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし 等</li> </ul>	7(28.0)

項目として「施設全般」「トイレ」を詳細に見てみると、アクティブラーニングプラザの使用時間の明示や汚れた場所の掃除など、院生が自ら利用しやすくするための積極的な要望として挙がっていた(この件については、本年度開催された学生FDシンポジウムの中でもすでに提案され、学部教育改善委員会と合同で「アクティブラーニングプラザ利用上の注意点」を作成するに至っている)。「空調」に関しては、棟や部屋の状況次第で、大学推奨の設定温度(夏期28℃、冬期19℃)と実際の温度が異なり、研究・学習に悪影響があるようであれば考慮する必要もあり、まずはその根拠となるデータを取ってみてもよいのではないだろうか。「院生室・研究室」に関して詳細に見てみると、室内の手狭さ、備品(パソコン、プリンター)について述べられ、この件も毎年(平成23年～)挙げられている内容で、改善が進んでいない様子が窺え、次年度への課題である。また、「領域別での研究環境の差」は数年ぶり(平成23年度)に挙げられた項目であるが、以前は院生室の有無での不平等感であったものが、今回は院生室内の備品に対する内容へと変化している。研究・学習環境を整えつつある中で領域毎の事情から時間差が生じる可能性はあるが、同額の学費を払っている院生に不平等感があることは問題である。領域毎の研究環境を調査した上で補正していく必要があるかもしれない。「WiFi環境」については、今後整っていく可能性は高いが、院生室・研究室まで整えてほしいとなると、改善の要望は多くなるだろう。「その他」で挙げられた車の入構許可であるが、院生の活動状況を考慮すると検討する余地があると思われる。